

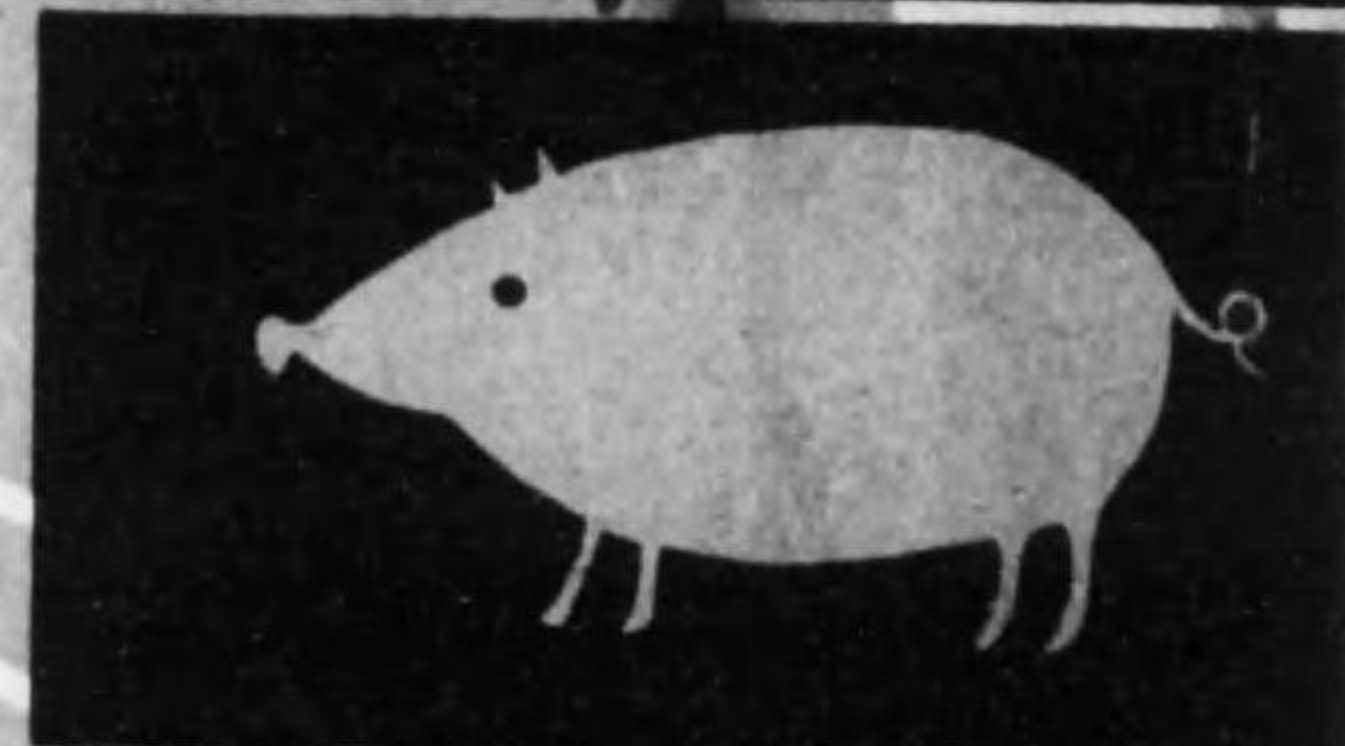
全購聯

飼料案内



特252

497



昭和十一年度

全國購買組聯合會



始



3
8

特252
497

目次

| | |
|---------------|----|
| 一、完全飼料 | 一頁 |
| 二、養鷄用完全飼料 | 一頁 |
| 三、種類 | 一頁 |
| 四、性質 | 二頁 |
| 五、使用法 | 三頁 |
| 六、綠餅不要 | 三頁 |
| 七、初雛用一號・中雛用一號 | 三頁 |
| 八、成鷄用(產卵用) | 三頁 |
| 九、給與法 | 三頁 |
| 十、肥育用 | 三頁 |
| 十一、原料 | 五頁 |
| 十二、營養分 | 六頁 |



三、**乳牛用完全飼料**.....八

(一) 種類.....八

(二) 原料.....八

(三) 栄養分.....九

(四) 使用法.....一〇

四、**豚肥育用完全飼料**.....三

(一) 原料.....三

(二) 栄養分.....四

(三) 使用法.....四

五、**混合飼料・附使用法**.....一五

六、**糠及麩殻**.....一七

七、**その他單味飼料**.....一七

全購聯飼料案内

一、**完全飼料**

完全飼料は自家配合の不利、不便を除き、専門知識を辨へないでも容易且安全に有畜農業を営み得る様にしたものでありまして、副業家は勿論、専業家でも誠に重寶な飼料であります。

其の配合率は農林省畜産試験場化學部にて、永年飼料の研究に従事しておられた鈴木幸三博士が多くの研究業績を基礎として良質、安價の二大理想を實現すべく、特に全購聯養鶏飼料の爲に考案せられたものでありまして、更に原料相互置換の原則を應用し、經濟界の變動に依り其の内の或る原料が特に騰貴する様なことがあつても、完全飼料のみは、常に概して安價なる配給をなし得る様にしたものであります。

尙、乳牛用、豚肥育用、鶏肥育用及特號も諸權威者の研究を基として慎重に考案してあります。

二、**養鶏用完全飼料**

(一) 種類

全購聯工場にて製造する養鶏用完全飼料には、左の種類があります。包装は何れも上目一二五斤(七五疋)……一〇貫(麻袋入及上目五〇斤(三〇疋)……八貫)新布袋入の二種であります。

- 初雛用 特一號 綠餌不要
- 中雛用 特一號
- 成鶏用 特一號 (綠餌皆無、綠餌不足の場合に使用します。)

(二) 性

| | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 初 雛 用 | 中 雛 用 | 成 雛 用 | 肥 育 用 |
| 一 號 | 一 號 | 一 號 | 一 號 |
| 二 號 | 三 號 | 四 號 | 五 號 |
| 六 號 | 七 號 | 八 號 | |

粉 餌
(常時使用する合理的且經濟的な飼料であります。)

粒 餌
(特に粒餌を慣用する場合の産卵飼料です。)

粉 餌 (特に格安飼料です。)
粉 餌 (肉用専門の飼料です。)

特一號は初雛用、中雛用、成雛用何れも綠餌皆無或は缺乏し勝ちな養鶏家の爲めに、ビタミン補給を特に重視して製造したものであります。綠餌を別に與へて最も經濟的に産卵鶏を仕立てる事を目的としたものであります。

(粉餌) 主として冬期冷涼なる時期に製造配給します。一號、三號の性質は同様です。原料の關係で何れかを製造します。二號、四號の性質は同様です。原料の關係で何れかを製造します。

(三) 使用法

一、綠餌不要完全飼料(特一號)

| | |
|-------------|-------------|
| 成 雛 用 | 肥 育 用 |
| 五 號 | |
| 七 號 | |
| 六 號 | |
| 八 號 | |

(粒餌) 終年製造します。五號、七號の性質は同様です。原料の關係で何れかを製造します。

(粉餌) 包米の含有量特によりあります。

(粉餌) 完全粒餌並混合粒餌を製造する時に副産する包米粉末を利用するもので、他の何れのものに比べても、例外的特殊の場合を除けば格安な見込であります。

肥滿させて肉用として販賣する場合に使用する飼料であります。

此の飼料は綠餌不要に特に重點を置いた飼料でありますから、綠餌皆無或は缺乏甚しき場合にのみ使用します。不斷給與として飲水、石片は別に豊富に與へます。綠餌不要だからとて、綠餌をやつては悪いのではありません。然し綠餌があり乍ら此の飼料を用ふるのは不得策ですから、速に他の飼料に變更願ひます。脱脂乳があれば與へて下さい。魚の臟腑があれば之を煮沸して練餌とするのも効果的であります。局方酵母、局方肝油等を〇・五%乃至一%混じても宜しい。木炭粉末は時々與へます。

二、初雛用一號・中雛用一號

綠餌を適當の大きさに細切して別器にて併用します。粉餌に混じても宜しいが、成るべくは●飼料はそれだけ充分に攝取せしめ、別に綠餌を與へるのであります。飲水、石片等も豊富に與へておきます。此等の飼料は數日ならば綠餌が切れても立派な發育をします。木炭粉末は時々與へます。

三、成鶏用（産卵用）

④成鶏用には一號から八號までありますが、これは原料及保存力の關係を考慮して保税工場に於て便宜上區別をしたに過ぎませんから、使用法は何れも同様です。不斷給與とし、他に綠餌、蠟殼、石片及飲水を充分に別器にて與へます。成鶏用八號以外のものは大體二週間以内ならば、綠餌が途切れる事があつても差支ありません。綠餌が貴重な場合には、成鶏一日一羽當三〇瓦（八匁）内外にて差支ありません。豊富な場合には分量を制限せず、別器にて充分に與へる方が飼料費の節約になります。但し原則として必ず別器にて與へ、決して矢鱈に④飼料に混ぜない様にして下さい。木炭の荒碎きしたものを時々與へます。

⑤成鶏用八號は概して安價であります。綠餌は絶対に缺かされません。故にこの飼料は夏期用、或は小羽數飼養家にて放飼をする場合に特に適する餌であります。

四、給與量

⑥完全飼料は不斷給與を原則としますが、給與量は大體次の様に致します。

| 日齡・月齡 | 一日一羽平均給與量 | 完全飼料 |
|-------|-----------|------|
| 餌付日 | 約 | 三瓦内外 |
| 一ヶ月目頃 | 〃 | 三八瓦 |
| 二ヶ月目頃 | 〃 | 五〇瓦 |
| 四ヶ月目頃 | 〃 | 七〇瓦 |
| 六ヶ月目頃 | 〃 | 八〇瓦 |
| 成鶏 | 〃 | 一〇〇瓦 |

④初雛用

⑤中雛用

⑥成鶏用

初雛用、中雛用、成鶏用の使ひ分けは、必ずしも右の様に嚴重に勵行する必要はありません。凡そ二ヶ月前後に充分に大きくなれば徐々に中雛用に變更し、卵を生み始めましたならば成鶏用に變更します。變更方法は一週間程かゝつて徐々に取換へれば宜しい。

尙給與量は卵價の下落甚しき時、或は休産中及素質劣等な鶏には適當に制限する必要があります。反對に特に産卵を促進し度き場合は練餌、或は點燈飼育等に工夫を凝らして下さい。

五、鶏肥育用

肥育用に最も適するのは、軍鶏、兼用種其他各地で昔から飼はれてゐる在來種であります。健康な鶏をえらんで自然肥育をやる場合は、飼料は粉餌の儘、或は脱脂乳、温湯にて練餌として與へます。強制肥育をする場合には脱脂乳或は温湯にて柔かい團子狀にして強制的に吞込ませる方法と、漏斗でドロ／＼の泥狀にしたのを流し込む方法と、強制哺育器を用ひて一定量を押し込む方法とがあります。強制肥育法は最も成績良好ですが手數がかゝります。自然肥育は最も樂ですが其の代り成績は餘り良くありません。何れにしても三週間乃至四週間に一割五分乃至三割平均二割肥へましたら販賣します。安價な拔雄や廢鶏の處分前に肥育法を施して肉質を改善する様な場合にも最も好適した飼料です。

(四) 原料

原料は各完全飼料の目的、原料の性質並時期により適當に取捨増減致しますが、次の様な原料を使用しております。

| 種類 | 水分 | 粗蛋白質 | 粗脂肪 | 可溶無窒物 | 粗纖維 | 粗灰分 | 合計 |
|----------|------|------|-----|-------|-----|------|------|
| 初雛用 特一號 | 一一・三 | 一九・一 | 四・七 | 五一・四 | 四・〇 | 八・五 | 一一・〇 |
| 中雛用 特一號 | 一一・二 | 一八・〇 | 六・二 | 五一・四 | 二・八 | 七・三 | 一一・〇 |
| 成雛用 特一號 | 一一・三 | 二〇・九 | 五・七 | 五一・一 | 三・八 | 八・二 | 一一・〇 |
| 成雛用 特二號 | 一一・三 | 二〇・九 | 六・五 | 四八・一 | 三・八 | 八・四 | 一一・〇 |
| 成雛用 特三號 | 一一・三 | 二二・一 | 五・四 | 四八・七 | 三・六 | 七・九 | 一一・〇 |
| 成雛用 特四號 | 一一・三 | 二二・五 | 七・一 | 四四・五 | 四・四 | 八・四 | 一一・〇 |
| 成雛用 特五號 | 一一・六 | 二二・四 | 五・〇 | 四七・二 | 四・一 | 七・七 | 一一・〇 |
| 成雛用 特六號 | 一一・六 | 二二・七 | 七・一 | 四四・五 | 四・五 | 八・〇 | 一一・〇 |
| 成雛用 特七號 | 一一・六 | 二二・四 | 四・九 | 四七・三 | 四・一 | 七・七 | 一一・〇 |
| 成雛用 特八號 | 一一・一 | 二〇・六 | 三・九 | 五二・八 | 三・〇 | 七・六 | 一一・〇 |
| 成雛用 特九號 | 一一・二 | 一八・〇 | 四・五 | 五三・九 | 三・七 | 七・七 | 一一・〇 |
| 成雛用 特十號 | 一一・二 | 二〇・二 | 四・一 | 五三・一 | 二・八 | 七・六 | 一一・〇 |
| 成雛用 特十一號 | 一一・二 | 二二・九 | 七・四 | 四〇・九 | 七・五 | 一〇・一 | 一一・〇 |
| 成雛用 特十二號 | 一一・〇 | 一八・四 | 四・三 | 五五・九 | 四・六 | 三・八 | 一一・〇 |

備考 一、本表は農林省畜産試験場分析平均成績並ケルネル、澤村兩氏表其の他により計算したるものです。
 二、飼料・骨粉・食鹽は粗灰分に計上してあります。
 三、經濟狀勢の變動に應じ原料の相互置換を行ひますから、右の割合は多少の變動がある事があります。

(五) 榮養分

完全飼料は本會に於て常に品質を吟味し、次の様な榮養成分を含ませる様に努力して居ります。

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|-----------------|--------|--------------|--------------|------------|---------------|-------|--------|--------------|------------------|--------|------------|--------|--------|---------------|
| 新鮮麻實粕 | 新鮮荏粕 | 乾燥燕麥 | 優良落花生粕 | 乾燥屑小麥 | 乾燥大麥 | 蒸製骨粉 | 紫苜蓿 | 蠟殼 | 再製一等食鹽 | 優良小麥麩 | 純無砂米糠 | 乾燥大豆粕 | 優良乾燥魚粕 | 乾燥高粱 | 乾燥白色包米 | 乾燥黃色包米 |
| 植物性蛋白質 | 植物性蛋白質 | 澱粉、ヅキタミン、蛋白質、纖維 | 植物性蛋白質 | 澱粉、ヅキタミン、蛋白質 | 澱粉、ヅキタミン、蛋白質 | カルシウム、磷化合物 | ヅキタミン、蛋白質、礦物質 | カルシウム | 鹽化曹達 | 蛋白質、澱粉、ヅキタミン | ヅキタミン、蛋白質、脂肪、礦物質 | 植物性蛋白質 | 動物性蛋白質、礦物質 | 澱粉、蛋白質 | 澱粉、蛋白質 | 澱粉、ヅキタミン、黃色色素 |

三、(産) 乳牛用完全飼料

乳牛に於て其の泌乳量を増加し、風味を改善し、市乳としてのみならず煉粉乳、バター、チーズ等の乳製品に及ぼす影響をも考慮して出来るだけ研究したものでありまして、乳牛に於ける生産飼料として極めて好適のものであります。

(一) 種類

| | | | |
|--------|--------|-----|--------|
| 乳牛用 一號 | 上目一〇〇斤 | 麻袋入 | 乾草期冬期用 |
| 乳牛用 二號 | | | 青草期夏期用 |

乳牛用一號は終年何れの時期にも適しますが、乾草期或は青草の缺乏し勝ちな時期には特に好適します。乳牛用二號は青草の豊富な時に使用すべきものであります。これは概して格安の見込であります。

(二) 原料

次の様な原料から適當に取捨増減して使用してゐます。

| | |
|-------------|--------------|
| 乾 燥 包 米 | 主なる有効成分 |
| 優 良 小 麥 麩 | 澱粉、ウキタミン、色素 |
| 優 良 椰 子 油 粕 | 蛋白質、澱粉、ウキタミン |
| 乾 燥 大 豆 粕 | 蛋白質、脂肪、纖維 |
| 優 良 棉 實 粕 | 植物性蛋白質 |

(三) 養分

| | |
|---------------|------------------|
| 優 良 落 花 生 油 粕 | ウキタミン、蛋白質、脂肪、礦物質 |
| 優 良 亞 麻 仁 油 粕 | 植物性蛋白質 |
| 純 無 砂 米 糠 | カルシウム |
| 新 鮮 荳 粕 | 澱粉、蛋白質 |
| 新 鮮 麻 實 粕 | |
| 蠟 混 合 飼 料 | |

| 成分 | 粗 成 分 | | | | 乳牛用一號 (%) | 乳牛用二號 (%) |
|---------|-------|---------|-------------|-------|-----------|-----------|
| | 水 | 粗 蛋 白 質 | 可 溶 無 氮 物 質 | 粗 灰 分 | | |
| 粗 蛋 白 質 | 一〇・九 | 一〇・〇 | 一〇・〇 | 一〇・〇 | 一〇・九 | 一〇・六 |
| 粗 脂 質 | 一・四 | 一・七 | 一・九 | 一・一 | 一・七 | 一・一 |
| 粗 纖 維 | 六・七 | 七・九 | 七・九 | 六・一 | 七・四 | 六・一 |
| 粗 計 | 一八・〇 | 一九・〇 | 一九・〇 | 一八・〇 | 一九・〇 | 一八・〇 |

| 飼養例 | 維持飼料 | 生産飼料 | 化成 | | |
|-----|----------------------------|------|-------|-------|-------|
| | | | 可溶無窒物 | 粗纖維 | 蛋白質 |
| 第一例 | 乾牧草(良質のもの) 一〇疋 (二、六六六) | | 三九・七 | 三・七 | 二四・八 |
| 第二例 | 野乾草(良質のもの) 二〇疋 (五、三三三) | | 一四・二 | 一四・九 | 四・五 |
| 第三例 | 生牧草(青刈牧草) 三〇疋 (八、〇〇〇) | | 六四・一 | 五二・九 | 一四・九 |
| 第四例 | 青草(青刈野草) 四〇疋 (二〇、六六六) | | 約一未滿 | 約一未滿 | 約一未滿 |
| 第五例 | 根菜(大根・蕪菁・甜菜等) 四〇疋 (二〇、六六六) | | 五九サーム | 四二サーム | 四二サーム |
| 第六例 | 乾草(良質のもの) 五疋 (一、三三三) | | 三・六 | 二・八 | 二・八 |
| 第七例 | 乳牛用完全飼料 一疋 (〇、二六六) | | 八八・一 | 八九・四 | 八九・四 |

備考 一、本表は農林省畜産試験場分析平均成績並ケルネル、澤村兩氏表

二、蠟燭は粗灰分に計上してあります。

三、經濟狀勢の變動に應じ原料の相互買換を行いますから、右の割合は多少の變動があることがあります。

(四) 使用法

乳牛には維持飼料と生産飼料との二つがあります。休息時保健に要するものが維持飼料で、生産飼料とは牛乳を分泌する場合の飼料であります。此の内維持飼料は出来るだけ自給飼料にて間に合せ、生産飼料には、乳牛用完全飼料を與へる様に致します。其の給與量は維持飼料に供するものゝ種類分量に依り計算して斟酌しなければなりません、便宜上次の様にして與へても大體に於て充分間に合ひます。

乳牛飼料一頭當一日平均給與標準表(生體重五〇〇疋)

| 飼養例 | 維持飼料 | 生産飼料 |
|-----|----------------------------|------|
| 第一例 | 乾牧草(良質のもの) 一〇疋 (二、六六六) | |
| 第二例 | 野乾草(良質のもの) 二〇疋 (五、三三三) | |
| 第三例 | 生牧草(青刈牧草) 三〇疋 (八、〇〇〇) | |
| 第四例 | 青草(青刈野草) 四〇疋 (二〇、六六六) | |
| 第五例 | 根菜(大根・蕪菁・甜菜等) 四〇疋 (二〇、六六六) | |
| 第六例 | 乾草(良質のもの) 五疋 (一、三三三) | |
| 第七例 | 乳牛用完全飼料 一疋 (〇、二六六) | |

| | |
|----------------------|--------------------------------------|
| 乾草(良質のもの) 五疋 (一、三三三) | 脂肪率四%の牛乳一〇疋當り |
| 乳牛用完全飼料 一疋 (〇、二六六) | ●乳牛用完全飼料三・六疋の割合にて與へる事。 |
| 乳牛用完全飼料 一疋 (〇、二六六) | ●樹目の場合は牛乳一升當り●乳牛用完全飼料一七五疋の割合にて與へること。 |
| 乳牛用完全飼料 一疋 (〇、二六六) | 一號、二號は何れでも同様に使用出来ます。 |

乳牛の泌乳能力は單に飼料のみならず遺傳素質、種類、個性、分娩回数、環境等により相當大きな影響を受けますから、右の飼料給與法のみを拘り定規に固執してはいけません。之を標準として個々の乳牛に合ふ様に次の如く按配します。

- (イ) 泌乳量が増した場合
①乳牛用完全飼料の分量を増します。次に粗飼料を増します。
 - (ロ) 泌乳量が減少した場合
牧草（主として禾本科草をよしとす）馬鈴薯、甘藷、屑穀物、②混合粉餌等を増します。次に③乳牛用完全飼料を増します。
 - (ハ) 肥つてきた場合
粗飼料も濃厚飼料も減らします。
 - (ニ) 瘠せてきた場合
初めに④混合粉餌、屑芋類、其他澱粉に富むものを増してみて、次に⑤乳牛用完全飼料を増します。
- 其の他の注意**
- (イ) 飼料の変更は徐々に約一週間程かゝつて行ひます。
 - (ロ) 飼料は搾乳回数に応じて適宜分與します。⑥完全飼料は成るべく搾乳前に、粗飼料は⑦完全飼料の一定量を食つてから與へます。エンシレージは必ず搾乳後に與へます。

- (ハ) 食鹽は安價な家畜鹽を一日一頭平均五〇瓦乃至一〇〇瓦（一三匁乃至二六匁）與へます。泌乳の盛な時は心持増してやります。
- (ニ) 飲水（冬季は温水）敷薬、枯草等は豊富に與へます。
- (ホ) ⑧乳牛用完全飼料の一號乃至二號は同じ様に使用出來ますが、一號は乾草期及び泌乳能力高き乳牛に適し、二號は青草期及普通乳牛に適します。

四、**産** 豚肥育用完全飼料

残飯、厨芥、醬油粕、米糠等を偏重し、これ等のみを多給してゐては決して充分なる肥育効果を收める事は出来ませんので、此等に基く弊害を出来るだけ匡正する爲めに考案したものでありまして、尙仔豚の育成にも使用できる様にしたものであります。

(一) 原料

| 原 料 名 | 主なる有効成分 |
|------------|----------|
| 乾 燥 包 米 | 澱粉、ソキタミン |
| 乾 燥 大 豆 粕 | 植物性蛋白質 |
| 優良 乾 燥 魚 粕 | 動物性蛋白質 |

次の様な原料から適當に取捨増減して使用してゐます。

包 裝 上目一二五斤 麻袋入

| | |
|--------|--------------|
| 優良小麦 | 蛋白質、澱粉、ウキタミン |
| ① 混合飼料 | カルシウム |
| ② 混合飼料 | 澱粉、蛋白質 |
| ③ 混合飼料 | 澱粉、蛋白質 |
| 其他穀物 | |

(二) 栄養分

| | |
|-------|-------|
| 水 | 二二・六% |
| 粗蛋白質 | 二二・九 |
| 粗脂肪 | 四・八 |
| 可溶無窒物 | 四九・五 |
| 粗纖維 | 三・八 |
| 粗灰 | 七・四 |
| 備考 | |

- 一、本表は農林省畜産試験場分析平均成績其他により計算したものです。
- 二、飼料食鹽は粗灰分に計上してあります。
- 三、原料の相互買換を行いますから、右の割合は多少の變動がある事があります。

(三) 使用法

肥育開始の適當な時期となりましたならば、①豚肥育用完全飼料を生體量の二十分の一乃至二十五分の一に相當する分量を一日當り一日分として其の儘やつても、或は水にて濕めらせて與へても、或はドロ／＼に煮て與へても何れの方法によつても差支ありません。勿論②完全飼料のみを充分食せば最も「スバラシイ」成績を収める事が出来ませんが、本邦養豚界の現状に於ては、それ程までしなくても右の様な飼方にて充分に報はれます。

次に飲水及澱粉に富む格安飼料を飽食させ、尙適量の芻草を投與します。

残飯、厨芥、醬油粕、米糠等にて専ら安價に肥育する場合には、最初に③豚肥育用完全飼料を與へ、これを食終つてから此等の飼料を充分に飽食させるのであります。尙混合粉餌、雜穀類、馬鈴薯、甘藷及蔓等も大いに効果があります。幼豚の育成用に用ふる場合には、④豚肥育用完全飼料のみを充分に食滞しない程度に與へ、尙新鮮にして優良なる青草類を與へます。脱脂乳、バターミルク、ホエイ等を飲用せしめ、肝油を少量添加するのも効果的であります。

斯様にして肥育に差支なき體量に達したならば、體量の二十五分の一に⑤豚肥育用完全飼料の分量を徐々に減らして前記飼方に移るのであります。

五、⑥ 混合飼料 附 使用法

混合飼料は内地澱粉業保護の見地から包米及高粱に高率の輸入關稅が課せられる様になつてから、他方之を飼料としてゐる養鶏家の經濟を圖り無稅輸入の途を講じるために、考へられたものであります。従つて出来るだけ簡單安價に無稅にする爲に多くとも四種、普通二種乃至三種を簡單に混合したもので、包米及高粱の含量は法規の許す限り概して多くしたのが其の特徴であります。

混合飼料は斯様な性質を持つてゐるので、營養學的には單味飼料と看做すべきものであります。即ち混合率は出来るだけ簡單安價なるべきが第一要件でありまして、混合率其のものに、種々の營養學的意義を持たせて多くの種類を製造する必要はありません。

故に全購聯飼料工場にては、各地方的事情を考慮して出来るだけ種類を制限し、簡単なものを澤山製造して安くする様に心懸けてゐます。

混合飼料は尙大連産のものをも配給致しております。此等の混合飼料は種類は多くとも其の栄養價値は大同小異でありますから、或る特定のものも市價が騰貴した様な場合には速に他の安價品を物色するのが最も賢明な策でありまして、此の點に關しては全購聯の對策に信頼して何れの混合率のものにても配給を受けて、飼料費の低減を圖る様に願ひます。荷造包装は普通上目百斤麻袋入であります。

◎混合飼料使用法

混合飼料は何れも其の性質上單味飼料と看做すべきものでありますから、大麥、小麥等と同様の使用法にて差支なきものであります。大體の原則は次の如き方法に依ります。

- (一) 撒餌、止り餌 混合粒餌は何れの混合割合のものも自由に使へます。
- (二) 自家配合 自家配合の原料に使用する場合には、普通五割乃至六割位まで使用出来ます。
- (三) 肉用鶏 荒割、中割、粉末、何れもありませんから、自由な配合が出来ます。

鶏を肥らせて肉用として處分する向には別に◎鶏肥育完全飼料がありますが、混合飼料を利用する場合には、蠟殼入り及多量に豆粕入りのものは適當ではありません。其他の混合飼料は粒餌でも粉餌でも何れでも宜しい。此の場合は給與量は制限せず出来るだけ澤山飽食させる事が秘訣です。

(四) 他の家畜、家禽

混合飼料は單に鶏のみならず、牛馬、綿羊、山羊、豚、其他凡ゆる家畜に適し、鷺、鶯、カーキヤムベル等の如き水禽、其他特殊家禽、愛玩鳥獸にも使へます。但し家畜並水禽には混合飼料は粒餌よりも成るべく粉餌の方が徳用であります。

六、蠟 殼 及 蠟 殼

蠟は栄養價値極めて優れた家畜、家禽は勿論、毛皮獸でも水産動物でも殆んど凡ゆる動物に使用出来、適應性の廣い事と、消費數量の多い事では販賣單味飼料中斷然其の王位を占めてゐます。全購聯亦最も其の統制に努力してゐるもの、一つでありまして、品質と價格が合理的なものを取扱ひますから安心して御使用願ひます。荷造包装は上目百斤九十斤、七十五斤等の麻袋入及上目五十斤新布袋入等であります。

蠟殼はカルシウムの給源として、殆んど總ての飼料に併用或は混用して優秀なる成績を収める事が出来ます。産卵鶏には特に必要ですから欠くことは出来ません。カルシウムの給源としては石灰石粉末や、雜貝殼もありませんが、栄養價値から云つて、蠟殼は最も優秀であります。荷造包装は上目百斤吹入りであります。

七、其の他單味飼料

單味飼料には右の他大豆油粕、魚粕、大麥、小麥、燕麥、粃、米糠、ビートバルブ、亞麻仁油粕、落花生油粕、コブラミール、棉實油粕、骨粉、醬油粕、澱粉粕等ありますが、此等は必要に應じ隨時取扱を致します。

昭和十一年二月二十五日印刷
昭和十一年二月二十七日發行

(非賣品)

不許複製

發行所

編輯者 東京市麹町區有樂町一丁目九番地 奧谷愛 昶

印刷者 東京市本郷區弓町一丁目二番地 桑田重 三

印刷所 東京市本郷區弓町一丁目二番地 桑田印刷所

東京市麹町區有樂町一丁目九番地

保證責任

全國購買組合聯合會

電話九ノ内

代表番號 三三五〇
自三三五〇至三三五九
至三一三〇〇

振替貯金口座東京六四一五〇番

終